

令和元～2年度の執行体制 及び 新役員・委員キックオフミーティング

—新たな執行体制が発足—

令和元年7月1日(月)15時から、神奈川県建設会館2階講堂において臨時理事会が開催され、令和元～2年度新役員の執行体制が決定しました。

今年度からの新たな試みとして、3副会長を「財務担当」「委員会担当」「支部連携担当」等の担当制とし、それぞれの副会長の各担当に関連する委員会及びその委員会を所管する常任理事を配置する体制としています。各副会長の担当業務と所管する委員会及び常任理事等は下表のとおりです。

また、臨時理事会終了後、これも新たな試みとして、16時から同会場において「新役員・委員 キックオフミーティング」が開催されました。キックオフミーティングは、文字通り新たな体制のスタートに際し顔合わせとして行われたものです。ミーティング冒頭の金子会長の挨拶に続き、金子会長から各委員会の委員長に委嘱状が交付された後、各委員会の委員を交えた意見交換会が開催されました。

令和元～2年度新役員の執行体制表

会長 (代表理事) 金子 修司	専務理事 宮林 正彦 相談事業担当	事務局 (事務局長) 宮林 正彦
	監事 小川 嘉一 長井 邦夫 折笠 幸男	
副会長 (事業活動担当) 長田 喜樹 ・財務担当 ・国際交流担当 ・士会連携担当	常任理事 芝 京子	総務企画委員会 (委員長) 芝 京子
	常任理事 雨森 隆子	教育講習委員会 (委員長) 高橋 秀行
	業務執行 (長田 喜樹)	CPD 専攻建築士 制度委員会 (委員長) 水田 敏弘
	常任理事 小笠原 泉	情報広報委員会 (委員長) 小笠原 泉
	国際交流担当 櫻井 泰行	

副会長 (会員支援活動 担当) 上原 伸一 ・会員増強担当 ・委員会担当	常任理事 玉野 直美	福利厚生委員会 (委員長) 比護 友一
	常任理事 伊藤 誠一	青年委員会 (委員長) 伊藤 誠一
	業務執行 (上原 伸一)	女性委員会 (委員長) 茶谷 亜矢
	常任理事 村島 正章	技術支援委員会 (委員長) 村島 正章
	活性化特別委員会 委員長 上原 伸一	(副委員長) 村島 正章 (副委員長) 長瀬 光市 村山 勉 太田 真理子 有泉 ひとみ 雨森 隆子 有泉 絵美 山成 芳直
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 会員増強 支部活性化 委員会見直し お試し会員 会員増強支部 支援交付金 </div>		
副会長 (社会貢献活動 担当) 渡邊 一郎 ・支部連携担当	常任理事 東 二郎 大規模災害対策士 業連絡協議会担当	防災委員会 (委員長) 東 二郎
	特命担当理事 ※シニア事業担当 内山 勝麗 玉野 直美	
	支部	
	横須賀支部長	平井 毅
	中支部長	矢野 高
	小田原地方支部長	櫻井 泰行
	川崎支部長	金子 成司
	相模原支部長	石井 明
	県央支部長	西方 正之
	湘南支部長	梅澤 典雄
横浜支部長	渡邊 一郎	
県庁職域支部長	庄司 博之	

関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会 埼玉大会

関ブロ埼玉大会について

青年委員長 伊藤 誠一

令和元年6月20(木)～22日(土) 関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会 埼玉大会が秩父のナチュラルファームシティー農園ホテルにて開催されました。

大会テーマは『建築よく』秩父には秩父神社が有りその社殿の彫刻に「お元気三猿」と呼ばれるユニークな彫刻があるそうです。日光の三猿と対象的で「よく見て、よく聞いて、よく話そう」ということで親しまれています。そこで、建築を「よく見て、よく考え、さらによくするよう」と皆さんの「建築欲」をかき立てる事を目的として開催され、参加者450名を超える盛大な大会となりました。

第一分科会では「発展的な未来の建築士会を考えよう」をテーマに各都県の地域実践活動の報告をし、第二分科会では「これからの建築材料」をテーマにセメント、レンガ、木材をピックアップし、講師と共にディスカッションを行い、知識と経験を各都県へ持ち帰る事を目的としました。また、第三分科会では、本県士会ではおなじみの「クロスロードゲーム(CRG)」を行い災害時の意識向上を図る事としました。

埼玉大会では今までの大会とは違い、発言要旨集のペーパーレス化を行い、大会に参加する方は要旨集をダウンロードすることから始まりました。また全体会議を1度に集約するなど、新たな試みをいくつか行うことで大会のスマート化図っています。

来年、令和2年度は茨城県水戸市で開催されます。大会テーマは「運動と建築」、多くの若き青年建築士が集う大会ですが、青年建築だけではなく多くの方々の参加をお待ちしております。



大会の様子

第一分科会 1-I

関ブロ埼玉大会で発表を終えて

横浜支部 太田 真理子

事前準備も繰り返し行い挑んだ「関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会 埼玉大会」でした。前日に会場入りをし、夜にも練習をしました。何度練習しても嘔んでしまい、結局当日も嘔むことになってしまいました。

私が発表したタイトルは「新たな横浜の一面にふれるため～フォトログ大会開催に向けて～」です。大会を開催するために、自身もフォトログ大会へと3回参加しました。そのほかにも講習会も受講しました。まだまだメジャーな競技ではありませんが、老若男女問わず楽しめるのが「フォトログ」です。フォトログとは、地図をもとにチェックポイントをまわり、得点を集めるスポーツです。このチェックポイントに横浜市の歴史的建造物を使用したいという趣旨の発表内容です。普段スポットがあたる「みなとみらい地区」に隣接した中区に、かなり多くの歴史的建造物があるのです。

発表へ向けての準備は、青年委員の仲間に助けられました。私は去年まで青年委員だったため、皆が全力で協力してくれました。仕事終わりの夜遅くに日付が変わるまで話し合いました。そんな仲間にも恵まれ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。本番が近付くにつれ、落ち着かない日々を過ごすことになりました。「早く終わって、スッキリしたい！」これがその時の私の本音です。

発表当日、金子会長や上原副会長、長田副会長はじめ、多くの青年委員も応援にきてくれました。機材の不良で緊張が増す時間もありましたが、無事発表を終えることが出来ました。結果は応用賞。賞をいただいて、夜は皆で美味しいお酒を飲みました。とても貴重な体験で、一生の思い出です。



授賞式の様子

第一分科会 1-II

横浜支部 永田 朋大

緊張感の漂う第一分科会 1-I を終え、リラックスした雰囲気の中始まった第一分科会 1-II。第一分科会 1-I での横浜支部太田氏の「新たな横浜の一面にふれるため～フォトログ大会開催に向けて～」の発表に興味を持ってもらえたようで他県から多くの参加者が集まり、テーブルディスカッションが行われた。



テーブルディスカッションの様子

まず、1-I で発表しきれず、伝わりづらい部分の「フォトログ」についての補足の説明をしたあと、集まった参加者からの様々なディスカッションを重ねると今まで気が付かなかった「フォトログ」の可能性に気が付いた。

そのなかで、ディスカッションのメインの内容となったのは、各々の県での「フォトログ」の開催をやるためにどうすればいいか、との質問が多く出た。神奈川では題名の通り「新たな横浜の一面」で歴史的建築物を知ってもらうことがテーマであったが、他県では、「地域活性化や町おこし」のイベントの一つとして出来るのではないか、「災害時における避難場所の周知、避難ルートの確認」を建築士として地域住民に出来るのでは、など私の想像を遥かに超えた「フォトログ」の可能性に気づかされた。今後神奈川県青年委員会の継続事業として行う予定の「フォトログ」にとっても有意義なディスカッションとなり、フォトログ開催に向けよい刺激になった。

第二分科会

～煉瓦～

横須賀支部(女性委員会) 山田 夏江

埼玉県と言えば、コンクリートが有名。煉瓦も有名というのは、ご存知でしょうか。東京駅と深谷駅がそっくりな理由も、講師 埼玉県建築士の竹内宣行さんの流暢な紙芝居プレゼンで紹介されました。

深谷市出身の実業家 渋谷栄一氏が、日本で最初の機械式煉瓦工場を深谷市で設立。東京駅と深谷駅が復刻し、似ているのは顔け、歴史の重みを感じました。

後半は、活発なディスカッション。神奈川県代表として、思い切って、手を挙げ。自分の会社(親会社)の創業者は、渋谷栄一氏。馬車道に、何故煉瓦があるのかも、一周廻って解りました。

いろいろ繋がりがあり、改めて深谷市を訪れたくなりました。ありがとうございました。



煉瓦の展示の様子



集合写真

第三分科会

中支部 新木 聡美

去る6月21日(金)に開催された関プロ埼玉大会にて第三分科会に参加した私は、シミュレーションゲーム【防災クロスロードゲーム】(CRG)なるものを体験してきました。コーディネーターに《防災塾・だるま》の白田先生・中村先生をお迎えし、災害対応時に直面するであろうジレンマを伴う幾つもの選択肢とどのように対峙するのかということを経験形式で考えるものでした。

『クロスロード』とは十字路・岐路・分かれ道を意味するようで、参加者全員が6グループに分かれて出されたお題について決められた立場の自分ならどうする?という答えをYESかNOで出します。例えば、「避難所運営責任者のあなたは人数分用意できない緊急食料を配りますか?配りませんか?」といった具合です。その答えが多数派意見ならポイントGETとなるのですが、面白いことにその意見が多数VS一人の場合は後者にポイントが付くのです。そして、答えが出揃ったところで理由を一人ずつ発表しました。すると、どの意見にも納得できる理由があり、「普通なら〇〇だろう」の“普通”という概念がいかに危うく頼りないものかという事を体験する貴重な機会となりました。

ここで大事なことは、多数意見が必ずしも正解とはならず、ましてや正解はないのかもしれないということ、過去の事例が常に正解とは限らないということ、立場・状況が違えば答えも変わってしまうことなど、自分とは異なる意見・価値観の存在に『気づく』という事であり、それこそがこのゲームの最大の目的ということでした。災害時に備え、平常時から考えイメージしておくことの重要性についても気づく事ができた有意義なワークショップでした。



クロスボードゲームの様子

関プロ埼玉大会に参加して

副会長 長田 喜樹

平成29年の箱根大会、30年の栃木大会に続いて、6月21日、埼玉県秩父市で開かれた青年協の大会に参加してきました。青年委員会のメンバーでもない高齢者がお邪魔していいのか、迷いはあったものの、やはり若い人たちが大勢集結された場には独特の魅力があります。

昨年10月、さいたま市での連合会全国大会に足を運びましたので、立て続けの埼玉訪問ですが、秩父地域の長い歴史や夜祭をはじめとする独自の習俗を体感することのできた、素敵な小さな旅になりました。皆様も今後各地で開催される青年協大会に参加されてはいかがでしょうか。

他の参加者の報告で既に触れられていると思いますが、大会のハイライトは第一分科会の地域実践活動報告会。1都9県の若手が活動の成果を発表し、競い合うわけですが、今年は、本県士会の太田真理子会員が見事入賞を果たしました。おめでとう!! 関内地区の歴史的建築物を対象としたフォトロゲイニング=写真撮影ラリーは、多くの市民に神奈川・横浜の建築遺産を再発見してもらう意味でも、実にタイムリーな企画です。今回は企画段階での報告でしたが、ぜひ本番を成功させて、神奈川はカッコだけじゃない、中身も充実と、他都県の人たちにアピールしたいですね。

単に対抗意識を燃やすだけでなく、他都県の進んだ取り組みを謙虚に学ぶことも必要です。私が個別に取材したのは、東京士会の高速道路高架下活用コンペと茨城士会のゲストハウスプロジェクト。区役所や首都高としっかり連携した東京会の取り組み、士会の若手会員が、古町屋をリノベし、さらに旅館経営にまで突っ込んでしまうという茨城会の大胆な取り組みには、感心することしきりでした。

その他、伊藤委員長が取材してくださった新潟士会の「建築業界と大学・高校卒業者が、士会を仲立ちに採用・就職を進めるシステム」も興味深いテーマ。はるばる秩父まで出かけた甲斐がありました。

令和元年第 29 回全国女性建築士連絡協議会

令和元年第 29 回「全国女性建築士 連絡協議会」東京大会 概要 女性委員会委員長 茶谷 亜矢

公益社団法人 日本建築士会連合会において、女性委員会は平成 2 年より全国の女性建築士の研修および情報交換等を目的とし、都道府県建築士会女性委員会（部会）の委員長（部会長）および全国の女性建築士、オブザーバー約 300 名が一堂に会する「全国女性建築士連絡協議会」を毎年開催しています。7 月 13～14 日、東京の建築会館にて令和初となる第 29 回の連絡協議会が開催されました。

今年は全国から 234 名、神奈川県建築士会からは全部で 10 名参加しました。女性委員会 4 名、子どもの生活環境部会 4 名。男性は青年と防災の委員会から各 1 名ずつとなっており、今回も活気あふれる大会となりました。

美しい日本の住まいのあり様を次の世代に引き継ぐことが重要であると考え、テーマを『未来へつなぐ居住環境づくり』～和の伝統技術の継承と創造～として、女性を含む若い職人の育成をテーマとした基調講演とトークセッションが初日にあり、二日目のテーマ別の 8 つの分科会ではそれぞれが課題を持って全国の仲間とセッション、に参加しました。各セッション 10 名それぞれ刺激を受けまたそれを持ち帰って活かしていく貴重な機会を得たと感じています。

一般に男性社会である建築業界にあって、女性を主体とした全国大会の開催はとても有意義であり、女性だけではなく、男性も参加し女性の意見が垣間見える貴重な機会として是非広く活用して頂ければと願っております。



写真は次回開催の福岡県のプレゼン

基調講演 トークセッション

女性委員会 山田 夏江

7 月 13 日、記念すべき令和元年の年に、初参加を致しました。一日目のみの参加です。

基調講演は、有限会社原田左官工業所 代表取締役 原田 宗亮氏より「和の伝統技術の継承と創造 ～新たなプロの育て方～」その後のトークセッションにて子育てしながら女性左官職人として工房を設立し活躍されている金澤 萌氏をゲストにお迎えし、女性ならではの心遣い、職人からフリーになった話。左官を誰でも身近な存在する工夫や、ワークショップ等、大変興味深い話を伺いました。

被災地報告では、北海道建築士会・福島県建築士会・岡山県建築士会より、未だに、復旧されていない所もあるというその現実を知りました。一日でも早い復旧を祈っております。

全建女について

女性委員会 雨森 隆子

全国の女性建築士にとって、年 1 度のこの会は、仲間を広げられる機会、楽しみの 1 つとなっています。何度も参加している女性建築士には、全国の仲間との再会、情報交換のために参加している方も多く、1 日目の全体会後には、交流会が開催され、それはにぎやかで、1 時間にもかかわらず、積極的に交流ができるのも女性ならではの魅力です。

その中でのワンバイワンは、女性委員会活動を 3 分で報告するものです。発表県にエールです。

この会では、被災地の生の今を知り、さらに全国の女性建築士の活動情報を得ることができます。参加し、大きな刺激を受け、自分たちの活動へ活かされていくのです。自分たちの活動を発信する事もできることは、活動の活性化に繋がっています。

2 日目は、A～H の 8 分科会があり、その後、全体会となります。分科会の報告に続き、女性委員長より建築士として、指針となるアピール文が読み上げられます。最後に、全国大会のお誘い、そして、次回、全建女開催地、福岡の案内があり、来年の再会を約束し、閉会となり、充実した 2 日間が終えます。

令和元年第 29 回全国女性建築士連絡協議会

第一日目に参加して

子どもの生活環境部会 関口 佐代子

1日目の全体会の前半では、岩手と秋田の歴史的な街並みや建造物を保存活用する報告に続き、被災地からの報告がありました。北海道の胆振東部地震のブラックアウトが起きた時の詳細の様子、福島の高野川流域の動画での現状報告、岡山の西日本豪雨を実際に体験した方からの話、どれも具体的で心に響くものでした。日々の暮らしの中で、災害への心構えを改めて考えなければ、という思いを持ちました。

後半の基調講演は、原田左官工業所の原田氏のお話と、原田左官に入社後、修行して独立した左官職人、金澤萌さんとのトークセッションでした。

金澤萌さんとは、子どもがつくるタイルアートの企画で一緒したことがあり、数年ぶりに再会することができました。金澤さんは、当時もとてもパワフルな左官職人さんでしたが、現在はさらにパワーアップされて、拠点を埼玉と広島に持ち、現場をいくつも抱えながら、地域でワークショップなども主催しているエネルギッシュな方です。

原田氏のお話は、女性も出産育児をしながら職人を続けていくためのサポート体制や、新人を育てる新しい手法など、とても興味深いものでした。そして新人が一人前になった時に、先輩職人さんやお世話になった方々、ご両親も招いてお披露目式をする様子や、インターンシップや体験会の開催で左官を目指す人を発掘していく過程など、今の社会にあった工夫がたくさん詰まった講演でした。

建築に関わる仕事の間や人材は、厳しい状況もあるけれど、それぞれの仕事に多くの可能性がある事、すなわち講演のサブテーマ「和の伝統技術の継承と創造」を原田さんと金澤さんから学ぶことができました。



トークセッションの様子

「被災地支援の取り組み」A分科会

防災委員会委員長 東 二郎

A分科会では、熊本地震の被災地熊本市北区龍田にある「椿が丘地区」での被災地復興支援の活動について、福岡県建築士会の木村洋子さんから報告がありました。

平成28年4月16日の熊本地震本震後、福岡県建築士会では4月23日から5月5日まで延219人の応急危険度判定士が調査に派遣されたそうです。このような中、被災地域内の留守宅を解放してくれる事になり、三日間の片付により「椿が丘支援ハウス」が立ち上がり、支援拠点が出来た事により、被害状況と心情を聞いたとの事です。

地震発生後の5月初めに住民会議が2回と状況確認、2週間後2回の建築相談会が開催されています。翌6月にも2回の住宅相談会と1カ月間の間に4回開催されています。そのエネルギーに驚かされました。それは、現地に支援ハウスが出来た事が、被災住民の方の心の拠り所になり、そこに行けば何か聞いて貰える、何かが見えてくるというような小さな希望を被災地の方に与えていたのではないかと想像します。地震発生後半年が過ぎて住民ワークショップが始まり、新しい視点のまちづくりが始まったそうです。地震で壊れたCB塀を廃止してオープン外構街並みと電柱の市有地への移設をする事で見通しの良い道路にすることが出来たそうです。それは、この地域住民の意識の高さもあると思われますが、地震被害を共有して出来た連帯感と住民の方が心の垣根を取り除いた事が大きいと思います。

復興支援では、当たり前ですが、技術のしっかりとした裏打ちと冷静な判断と被災者への寄り添いの必要性を強く感じた次第です。



A分科会発表の様子

令和元年第 29 回全国女性建築士連絡協議会

「歴史的建造物と建物再生」C分科会

子どもの生活環境部会 稲村 和美

C分科会では、熊本県建築士会の磯田節子氏による熊本県宇城市小川町の復興まちづくりの報告でした。平成28年の熊本地震により、江戸末期から明治時代の町家が多く現存する小川町商店街は被害を受けましたが、瓦や漆喰壁の崩落は見られたものの柱や梁の構造体はほとんど損傷がなく、改めて伝統工法の強さを実感されたそうです。被災した町家の修復工事に於いて、下記の問題点について意見交換を行いました。

1. 専門家不足（建築士・職人）
2. 公費解体による町並みの損失
3. 構造的判断の難しさ
4. 価値を損なわない修復とは
5. 高齢化、その後の経営継続の難しさ

古い建物を大切にしてくれる職人探しは困難なこと、修復の道を探るよりも、公費解体のスピードは早く、解体して建物を新しくしたい持ち主に対し、修復して残したい建築士という構図があること。建築基準法に対応していない伝統工法の構造的判断をどうするか、安全性を証明することが困難なこと。修復された町家の運営は継続性がポイントで、行政や学生と共同するなど工夫が必要、等々。意見交換することで、皆同様の悩みをお持ちだということが分かりました。

その中で、持ち主に伝統的建物がいかに素晴らしく価値があるか、建物を修復した事例や、建物の価値を伝える活動を続けた結果、「解体して新築したい」から「修復したい」に価値判断が変わった、という事例もあり、嬉しく希望を持ちました。

私達が伝えていくことで持ち主や職人さんも一緒に育っていく、伝統的建物の魅力を伝える発信を続けていくことが大切だと実感しました。特に次の世代への情報発信を工夫して伝えていきたいと思います。



C分科会
意見交換
の様子

「高齢者と住まい」G分科会

女性委員会 竹島比佐子

G分会では岐阜県建築士会女性委員会の高野氏、伊藤氏をコメンテーターに迎え、「私のまちの『建築士』をめざして」をテーマに、岐阜県建築士会が取り組んでいる活動について報告がありました。

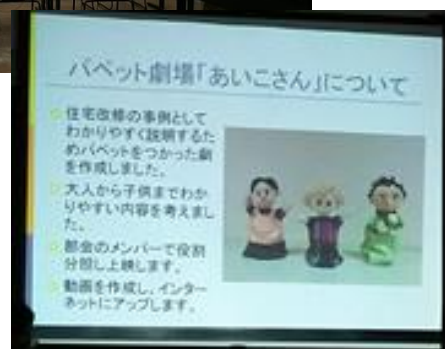
岐阜県建築士会は独自に資格『福祉まちづくり建築士（通称：福まち建築士）』を制定しました。福祉用具や住宅改修研修を受講した建築士が『福まち建築士』として医療、介護、福祉の多職種と連携しながら、住み慣れた「住まい」への手助けを行う活動の発表に地域に密着した建築士の思いが込められていると感じました。

福まち建築士の資格の内容は福祉住環境コーディネーターとほぼ同じですが、福まち建築士は1時間程度の相談は無料であることに加え、業者が提案した内容より、安価で将来を見据えたプランを提案するなど、建築士の視線からの助言を行うことで結果的には相談者にとってメリットにつながったとの事例報告があり、岐阜県の本気度がうかがえる内容でした。また住宅改修の事例をわかりやすく説明するため手作りのパペットによる「転ばぬ先の手摺」という劇を公開するなど多方面から活動を行っているそうです。

活動報告の後は、福祉住宅改修に建築士がどう関わっていくかのディスカッションがあり、各県によって様々な意見交換がなされました。ヒントとなる内容が多く、自県に持ち帰り今後の活動の参考にしたいと感じた分科会でした。



G分科会
発表の様子



パペットによる
福祉住宅改修の
広報活動

コンペホームページでシンポジウムの動画公開中！

是非ご覧ください！

町と家の 「あいだ」 を考える



感境建築
コンペ
2019

FEEL BORDER ARCHITECTURE

感境建築コンペ2019
町と家の「あいだ」
人が心地よいと「感」
じる「境」をテーマに
コンペ審査員の皆様を
パネラーにお迎え公開
シンポジウムを開催い
たしました

令和元年8月31日(土)波止場会館4階ホールに
おいてコンペテーマ公開シンポジウムを開催いたし
ました。

参加者36名(会員21、非会員9、学生6)担当関係
者15名(審査委員3、本会員5、部会員7)合計51
名 協賛4社が参加しました。

コンペ審査委員長 伊礼智氏 審査委員 関本竜太
氏 甲斐徹郎氏をパネラーとしてお迎えし、基調講
演・コンペで考えることを、それぞれの事例を交えな
がらお話いただきました。

沖縄に古来からあるヒンプンやアマハジが外部と内
部をつなぎ豊かな暮らしをつくっていることや、隣家
同士や周辺環境の関係性をひらくことでコミュニケ
ーションが生まれること、個と個の関係性、主体性の
相互作用が豊かな暮らしや快適性をつくる、性能のそ
の先の豊かさ等々。心地よいと感じる「あいだ」につ
いて貴重なお話を聞くことができました。

後のディスカッションも豊かな内容となりました。
最後に伊礼智審査委員長から参加者にむけ、テーマを
楽しくとらえ、自由な表現方法で数多くの応募作品が
届くことを期待しますとの言葉で閉幕いたしました。
皆様の感じる、考える、町と家の「あいだ」
数多くの応募作品をお待ちしております。



ディスカッション中のパネラーの皆さま

感境建築コンペ2019 FEEL BORDER ARCHITECTURE

町と家の「あいだ」を考える

現在、快適性の指標においては、おもに定量的指標とし
てさまざまなものがあります。また、五感や心理(感情)
などの定性的な面も含めて、人が心地よいと「感」じる
「境」があると考えられます。そして居心地の良さを考
えるとき、良いと感じるその「境」は、家の内だけでは
なく、広くいえば町と家の「あいだ(間)」までいろい
ろな場面にあると考えられます。そこで神奈川県内の既
成市街地において、心地よく感じられる住宅の内と外の
関係性を考えた住宅作品やアイデアを募集します

審査委員長

伊礼 智 (建築家・伊礼智設計室)

審査委員

関本 竜太 (建築家・リオタデザイン)

甲斐 徹郎 (株式会社チームネット)

吉田 貞夫 ((一財)神奈川県建築安全協会理事長)

金子 修司 ((一社)神奈川県建築士会会長)

表彰

【最優秀賞】1点

・賞金 20万円

【提案部門】

・優秀賞 賞金 5万円

・審査委員特別賞

【実作品部門】・優秀賞 賞金 5万円

・審査委員特別賞

募集期間

2019年9月1日(日)~2019年10月31日(木)必着

※申込締切 2019年10月25日(金)までとなります

[感境建築コンペ2019] で検索ください！



シンポジウム全景

日帰りバスツアー

南アルプスを望む景勝の清春芸術村と
パワースポット諏訪大社上社本宮参り
川崎支部 村山 勉

6月29日(土)に川崎支部恒例の見学バスツアーが開催されました。ここ数年は県士会会員を含めてリピーターも増え、今回は40名の参加者が集まり、出発前から企画は成功。と言っても過言ではない楽しいイベントでした。

今年の行先は山梨と長野。日帰りツアーの移動距離としては限界への挑戦になった企画で、早朝7時に溝の口を出発したバスは一路、山梨は清春芸術村へ。

現地の学芸員さんから、芸術村の成り立ちから、谷口吉生のデビュー作である美術館の説明を始め敷地内にある10作品の説明は興味を覚えるものばかりでした。



清春芸術村にて

このような施設はただ見るのではなく、今回の様に専門性を持った学芸員の説明の元で見学をする事で、本来の建築の成り立ちや在り方まで理解できるので非常に重要な企画であると実感しました。桜の季節にまた来たいと思う土地でした。

次の目的地は川崎支部恒例の酒蔵。『七賢』へ。



七賢にて日本酒を堪能

白州の水のから作られた日本酒を堪能し、敷地内にある県の有形文化財であり明治天皇の行在所であった北原家住宅の見学が、個人的には今回の企画で一番見どころでした。



北原家住宅にて

その後、最終目的地の『諏訪大社上社本宮』へ。バス内での映像を使った事前勉強会の甲斐もあり歴史的知識が付いたことで、到着時の印象に不思議なパワーが加わりその壮大な建造物に圧巻されました。なかなか見つけにくい4本の御柱も現地ガイドの説明で確認することができ、人を中心に撮ってはいけないルールのもと、集合写真をとり帰路に着きました。



諏訪大社上社本宮にて

川崎支部のバスツアーには恒例が多々あり、帰りのバスでは、寝ることができない。というもお約束。役員の方に事前に準備頂いたお酒やお菓子が振舞われ、川崎への到着を待たずに懇親会が始まります。例年この帰りのバスでの交流が会員同士のコミュニケーションの場として一躍を担っていると思います。

その後は全員参加での自己紹介が行われ、参加者が皆、話し終えるころにバスは溝の口へ到着。

事前に準備された会場で、二次会も開催され、長い一日のバスツアーは盛会に終わりました。

本企画を開催するにあたりご尽力頂きました川崎支部の役員の方々に感謝いたします。来年もぜひ参加させていただきます。楽しい企画を楽しみにしています。ありがとうございました。

アスベスト対策をお聴きして

湘南支部 橋本 守

横浜支部「アスベスト対策講座」

～アスベストによる健康被害を発生させないために～

6月7日開催 横浜支部主催 横浜市建築局後援
アスベストの存在の認識から処置の完了までが、適法な正しい手順を経てなされるべきこと。その作業は、施主・設計者・施工者等々相互の間での、アスベスト対策に対する共通の認識・理解をもってなされるべきこと。これらの重要性を痛感しました。そして、今現在と未来を生きる人々に対する愛情と尊厳を守る堅固な決意の共有が大前提になることも確信しました。それは、アスベストの危険性について正しく認識する科学的な努力の上に、今現在と未来に生きる人々の健康を連続的に守り通すことを最優先の価値とする思想の堅持です。今は、建築を生業とする者だけでなく、一般の市民にこそ、アスベストの正しい知識とそれを適用する高度な人間的知性や倫理性が求められているのではないかと、改めてとらえ直しました。アスベストを含む建築物等の所有者は、殆ど一般の市民です。アスベストを所有する限り社会的な責任は持続します。そして、所有者は被害を与える側であり、街を歩けば同時に、「ばく露」する側にも立ち得ます。私達が最優先する価値を守ろうとするならば、もはや、一方の立場に留まることはできません。従って、アスベストについての知識を持つことは市民の義務でもあるとの考えが生まれます。

また、横浜市にはアスベスト関連工事の申告事例が蓄積され、工事の実態や改善点・問題点などの貴重な情報やデータも蓄積します。これらを業界関係者だけでなく、一般の市民にも分かりやすい形で公開され、共有が進行するならば、市民のアスベストに対する正しい理解を更に深めることができる上に、アスベスト排除の機運が更に高まるとも思われます。



会場にセットしたアスベストによる作業員への健康被害を防ぐ『アスベスト化学防護服』触つたり観察

夏はやっぱり肉でしょ！

相模原支部 山口 義弘

相模原支部恒例行事、バーベキュー大会が今年も夏真っ盛りの8月24日(土曜日)AM10:45より、相模川沿いの上大島キャンプ場にて行われました。

当日は朝から晴れのさわやかな気候で、蝉が気持ちよく鳴いていました。

参加者は34名(相模原支部8名、他支部17名、本部事務局1名、一般8名)でした。今年は女性の参加者(13名)が増えて、華やかな夏のひとときになりました。



県央支部・奈良さんの開会挨拶で乾杯！！



肉！肉！肉！



癒しの尺八演奏

毎回、奈良さんに準備及び調理して頂ける美味しいお肉は、最高です！

参加者一同記念写真



ご参加して頂いた皆様、誠にありがとうございました。

地引網大会に家族で参加

湘南支部 湯本 敦

昨年は荒天のため中止だった地引網大会も、今年は6月9日(日)、曇天のなか、えぼし岩や江の島を臨む茅ヶ崎海岸「カネサ網」で実施することができました。神事協藤沢支部、鎌倉支部、茅ヶ崎・寒川支部、藤沢市設計監理協会の後援で行なわれ、大人68名、子ども29名が参加しました。新会員の方や新たな子どもたちの参加もあって、大いに賑わいました。



梅澤支部長あいさつ



熱闘バーベキュー

梅澤支部長の開会あいさつから始まり、まずは地引網への英気を養うべく、大好きなバーベキューです。

次に準備体操。子どもたちは「宝探し」での砂掘りで手足の血行をよくします。準備に余念なく、深く広く余掘りします。大人たちも「ビーサン飛ばし」でストレッチ。筋肉や関節をほぐします。



宝さがし



ビーサン飛ばし

そして支部として2年ぶりの地引網。漁師さんの掛け声のもと、全員が、左右二手に分かれて大きな網を引き揚げます。主に10cm以下のカマス、アジ、イワシ、サバなどが占める中、体長40cmあるマダイも一匹獲れました。ことのほか大漁で、持ち帰り希望者を募っての一人当たりの配分は大きかった。我が家も一週間近く、塩焼や揚物となって食卓や酒の肴に登場したほどで、おなかも気持ちも一杯になりました。

家族とも一緒に、楽しい交流のひとときを過ごすことができました。この会を準備運営していた関係者のみなさまに感謝いたします。



左右二手に分かれて引き揚げ

湘南支部では、7月30日にDVDによる建築士定期講習を行いました。秋には見学会を企画しています。

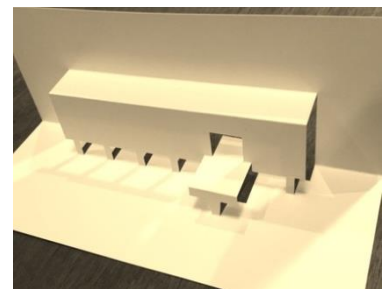
「大きい模型・小さい模型」

女性委員会 石田 尚見

7月6日(土)開催前日までは西日本では集中豪雨で崖崩れが起きるほどの大雨で、関東地方も雨続きでしたが、当日は雨に降られる事なく、参加型イベント「大きい模型・小さい模型」を開催することが出来ました。

大きい模型 ル・コルビュジェ「カップ・マルタンの休暇小屋」や「待庵」等、原寸レプリカを再現。「ものづくり大学」では、世界的名作と称される住宅や工業製品などを原寸で忠実に再現し、ホンモノのものづくりを手触りで体感する事を目的として、再現したそうです。ものづくり大学から大竹講師をお招きし、写真やたくさんの動画、当時使った立体図面などを使いながら実際の製作の様子を見せていただきました。ネジ1個から建築金物、照明、家具に至るまで、まるごとの再現。レプリカを認可していたコルビュジェ財団もあまりの精巧さゆえか、以後作る事を認可されなくなったことを聞き、「日本人の技量の高さ故か？」本当の理由はわかりませんが、少し誇らしさを私は覚ええました。近代建築の巨匠と呼ばれるコルビュジェが1951年に設計し、作ったものを、学生達が再現した時に、何を感じたのか、その製作を通して、今にどう生かされているのか、当時製作した学生たちの成長した姿を10年後、20年後と見てみたいと感じました。

小さい模型 「折り紙建築で作ろうコルビュジェ」と題し、国立西洋美術館をワークショップで製作しました。今回の参加者は折り紙建築の経験者が多かったことから、更にサヴォア邸も製作。参加者全員が時間内に2つ製作出来ました。製作中に講師の茶谷氏が言っていた事で、驚きの事実が発覚。紙には縦用と横用があるということ。以前、立体切紙カード(折り紙建築に作り方が似ています。)を作りたかった私は、ことごとく上手くゆかず断念した経験があり、原因は紙の



国立西洋美術館の折り紙建築

方向だったのかと腑に落ちた次第。改めて、物を作る事の素晴らしさ、楽しさを肌で、手で感じられる時間を過ごしました。こんな機会を是非他の会員の方にも味わってもらえたらと思います。

◆委員長から一言◆ (村島 正章)

今年度も残り半年、各部会頑張って講習会・研修会開催していきます。多くの参加を期待します。

そして感境建築コンペは10月末まで募集していますので、多くの方の応募をお待ちしています。

■子どもの生活環境部会 (宇野 素子)

6月23日に関内のkosha33にて、昨年度の活動報告会&交流会を行いました。報告会では川崎市景観ワークショップ・バリアフリー体験・古民家探検・小学校授業支援・川崎市多摩区ワークショップ等について発表、ワークショップでは小田原林青会の方々による丸太の皮むき体験と木工、kosha33内ライフデザインラボで活動されている方々による木のまち積木遊び等を体験しました。またゲストスピーカーとして、元部会の学生ボランティアスタッフで、現在は日本大学建築学科助教の井本佐保里さんにお越し頂き、アフリカでの学校建設や被災地の仮設住宅や保育園設計の実際についてお話頂きました。後半には林青会の方々とは井本さんによるトークセッションを行い、学生さんはじめ参加者の方々との間での質疑応答も盛り上がりました。盛りだくさんの内容に子どもから学生、大人まで40人近い方々にご参加頂き、楽しく多くの繋がりが得られる大変有意義な会となりました。



6月15日には、日本建築学会子ども教育支援建築会議にて、昨年度横浜市立藤が丘小学校で授業支援を行った内容について発表しました。また、7月20日には今年も造形教育研究大会に参加し県内の造形教育の実際について学び、8月24日には小田原林青会の方からのご紹介により木まつりの森林体験ツアーに参加し、実際の木に触れながらの学びを体験し、今後の活動のヒントを得てきました。

これからも好奇心を大切に繋がりを広げ、子ども達のために建築士ができる活動を続けたいと考えています。

■木造塾部会 (山中 信悟)

木造塾部会の上半期の活動を紹介します。

5月31日から1泊で桜設計集団安井昇先生の八ヶ岳の秘密基地へ部会研修に出かけました。6m×6mの小さな秘密基地です。「つくる」というテーマの中では木材は適材適所に配置されており各所にて必要な性能の根拠が確立され下地仕上げでは温熱環境や使う人間が触れる感覚を意識したものとなっていました。「つかう」のテーマにおいては安全、安心、メンテナンスを考慮されており中では太陽光パネル発電に蓄電池を組み合わせ1週間程度生活できるなど災害時にも強い建物となっています。小さな空間の中で薪ストーブを採用していますが防耐火に配慮し快適なうえに安全が確保されています。「つなぐ」という部分では多くの人々が関わり時間や技術を共有しお互いを高めあえる場所を目指しているそうです。

【火育】【木育】【土育】の場所として活用されています。素晴らしいロケーションの中で素晴らしい体験をさせていただき有意義な研修となりました。



6月26日に青年委員会共催にて「あらためて学ぶ木造塾講座」の第1回目木造塾部会山中が講師となり「木造耐力壁の法改正+耐力壁のつくり方」という講習会を開催しました。耐力壁の解説だけでなく実務上の注意点も含め幅広くお話をさせていただきました。新規登録者から熟練建築士まで定員を超える申し込みをいただきました。今後も初心に戻るような勉強会を併設していければと考えています。

12月上旬には第2段を企画中です。木造塾からの広報にご注目ください。



スクランブル調査隊やくだつセミナー(第2回)
「被災歴史的建造物の調査・修復・活用
の実例について」に参加して

横須賀支部 小山 美智恵

7月5日(金)開港記念会館にて、スクランブル調査隊やくだつセミナー(第2回)が開催されました。国交省のガイドラインも整備され、歴史的建造物は今後活用されて行くものと思われませんが、実際にはどのような課題があり、どのように進めていけるのかということに関心があり、参加させて頂きました。

今回の対象は被災歴史的建造物ということで、被災する前の資料の重要性も改めて感じる事ができました。また、価値の共有や所有者等との信頼関係、関係各所との調整など技術的、或いは金銭的な問題のみならず、苦しい状況におかれた人々のモチベーションを上げるなど、コンサルタントとしての役割を果たせることが必要で、見えない努力や苦労もたくさんあるのだと感じました。今ある建物も風景も刻々と流れる時間の中で変わっていくものと認識し、記録に残すことを心がけていきたいと思います。修復の内容も次の世代に繋げていけるようにするなど、長い時間軸で物事をとらえ、広い視野で考えられた講師の兼弘さんの体験談は、こなすのではなく、人と建物に寄り添うことが重要だと思えた有意義な内容でした。

熱海散策

「熱海別荘建築からシェア店舗まで」

中支部 一柳 明秀

7月20日(土)、静岡県建築士会の協力のもと、熱海の散策を行ないました。

熱海は古くから温泉地として知られ、保養地としての別荘地、観光地として発展してきました。数は減ってきているものの、歴史的建造物というべき別荘建築が残されています。

また、近年、既存の商店街の空き店舗をリノベーションし、新たな価値を生み出し、人を呼び込むことに成功しています。

静岡県建築士会の尽力で、普段は一般公開されていない陽明館を見学することが出来ました。

陽明館は製紙業の社長を務めた人物が昭和14年に山麓に建てた別荘で、今では残り少なくなった熱海の別荘建築の歴史を語る建築の一つである。

南面に向かって居室が設けられた開放的な空間構成に、細やかな意匠を散りばめた数寄屋風にまとめられています。

坂道を必死に登ってきた一行にとり、海を望む景色は、清爽を得られるひとときでした。

他に凌寒荘、起雲閣等の別荘建築や来宮神社を巡りながら周辺の町並みも味わい、商店街ではリノベーションされた店舗を中心に見て廻りながら昼食を味わう充実した散策でした。

一日、熱海市内を見て廻りましたが、若い世代の観光客が多かったのが印象的で、新たなまちづくりの潮流を感じることも出来ました。



講師を囲んで集合写真

日本橋から箱根まで

旧東海道を歩いてみよう！（最終回）

福利厚生委員 松山 克己

2017年9月23日、日本橋から始まった旧東海道散歩が、2019年6月1日（土）箱根宿散策にて終了いたしました。常に10人以上の皆様にご参加いただき、大変感謝しています。また、街歩きを通じて当委員会恒例の事業へ初めてご参加いただいた方もおり、大変有意義な事業だったと考えています。

6月1日12時に小田原駅に集合し、箱根登山鉄道で箱根湯本へ。バスに乗り換え旧道本陣跡まで移動。名主の茗荷屋敷であり、立派な日本庭園の面影を残します。寄木会館まで歩き見学後、畑宿から甘酒茶屋までバス移動し、いよいよ芦ノ湖まで石畳を歩きます。白水坂（城見ず）や天ヶ石坂（天蓋石）など、急坂には名前がついていて、それぞれの由来がおもしろい。箱根八里の歌碑を過ぎるとまもなく芦ノ湖である。

旧東海道をそれて、箱根神社へお参りに立ち寄り、杉並木・芦ノ湖畔を歩き関所資料館では内部の見学。当時の関所の様子が再現され、貴重な資料をみることができ、往時の旅人の苦勞に思いをはせながら、みなさん思い思いにすごしていました。

今回の企画はこれにて終了となりますが、「他の街道も歩いてみたい」という声も多く聞こえたので、今後の委員会で検討していく予定です。



箱根神社での集合写真と御朱印

箱根関所跡からバスに乗り小田原駅まで移動し、反省会。バスの中は外国人が多く、若い人が当たり前のように席を譲っているのにビックリするとともに、バスの運転手の方が英語で話をしているのにも大変驚かされた箱根旧街道の旅でした。

「モブトーク」を開催して

青年委員 阿見 久美

7月17日に、青年委員会主催2019年第一回モブトークを開催しました。「モブトーク」とは、士会に限らず青年層が集まって話し、やってみたいことをベースに新しい事業を生み出そうという企画です。初の試みということもあり、一抹の不安を抱えながらの開催でしたが、第一回では新規4名、青年委員11名の計15名で開催することができました。

進行は、全員の簡単な自己紹介の後にディスカッションとしました。初めてご参加くださった皆さんも積極的に話してくださり、さながらアイディアソンのような形で様々な意見がとびだしました。

経営を教えてほしい／コミュニティに興味あり／今さら聞けないことが分かたらいい／失敗を共有したい／これからの建築を語りたい／コラボやコミュニティがあったらいい／青年でクラウドファンディング／一般の方の困りごとを拾い出しアンサーを提供する／ルール作りなど、日頃から考えていることやもっとこうだったら楽しいのに、ということを自由に発言していきました。前提となる「自由な発言・互いの尊重」を全員で共有することで心理的な障壁がなくなり、思いもよらなかったアイデアが持ち寄られます。自己紹介では、各々の仕事についても話が及び、様々な視点で語られる言葉から思考が多角的に発展しました。参加者からは、互いの思いを理解しつつ共有できるものを探るというスタンスで終始進行されるオープンな場を褒めてくださる声もあがりました。

次回は9月11日です。第一回であがったアイデアの掘り下げや新たな発案などにより、創造的な場となるよう潜在的な可能性を可視化していきたいと思えます。青年委員一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。



モブトークの様子

活性化特別委員会からの報告

建築士会活性化への取り組み

活性化特別委員会委員長 上原 伸一

神奈川県建築士会では今年度の重点事業として、会員増強による組織力と会員力を引き出す組織作りを掲げ、新たに活性化特別委員会を設置しました。9名の理事により、前年度までの増強に向けた様々な事業に加え、新たに活性化を目指した組織作りとして支部の活性化と委員会の適正な機能と明確な目的の形作りに取り組んでまいります。また、具体的な活動内容については SALON 等で報告してまいりますので、会員の皆さまにもご理解ご協力をお願いいたします。

一級建築士設計製図受験者向け施設見学会 (建築士会会員増強への取り組み事案)

活性化特別委員会 村山 勉

本見学会は士会会員の候補者でもある建築士試験受験生に早い段階から建築士会の存在を知って貰い、関わりを持って貰うことで、合格した暁には建築士会に入会して貰う事を目的としています。その後の『免許登録受付の士会 PR』『免許証明書授与式』へと繋がり、会員増強への一躍を担っていますのでここでご紹介いたします。

8月26日、湘南支部、総務企画委員会、青年委員会、女性委員会協力のもと、茅ヶ崎市美術館にて本年度の建築士試験受験者40名が参加し見学会が開催されました。本見学会は平成25年に青年委員会の企画として始まった見学会ですが、一昨年前より本会主催の事業となりました。この見学会は製図試験の課題発表を待って施設の選定を開始し、打合せと広報・集客を含めた準備期間が概ね2週間程度で開催に至ります。

今年の課題は『美術館の分館』です。分館をどのように捉えるかが重要なテーマとなる中、茅ヶ崎市美術館は隣接する図書館と一体的な利用がなされ、市民活動ができるアトリエや一般開放されたカフェもあり分館機能を持っている為、受験者にとって非常に参考になる見学会になったかと思えます。休館日の美術館を借りての見学会は10時に受付を開始し、参加者の皆さん揃った所でエントランスホールに並べた椅子に座ることから始まります。

開催にあたり、本会の芝常任理事の挨拶の後、見学会開催の為の施設調整を行って頂いた茅



全体説明の様子

ヶ崎市職員でもあり湘南支部の大谷さんから美術館の成り立ち等の説明があり、美術館の学芸員からは施設概要や見学時の注意事項の説明を受けました。その後、建築士会として試験当日の注意事項や試験日を迎えるまでの心得等の配布資料を使用して伊藤理事よりレクチャーされました。30分程の座学を終え、事前調整された見学ルートを3班に分かれて数名の士会会員の引率で見学が開始されました。

参加者は配布された美術館の図面と実際の建物を見比べながら、スケール感を必死に記憶されていました。美術館として公開されているエリアに加え、収蔵庫を除くバックヤード、機械室など通常では入れないエリアも見学し、班を引率する士会会員や学芸員に質問をする方がいたり、スケールを持参して各所の寸法を測りメモをする方がいたり、製図試験への意気込みが運営側にも伝わるくらい参加者は皆さん一生懸命に施設を見学されていました。1時間程の見学会を終え、質疑応答を行い見学会は無事に終わることが出来ました。



施設見学の様子

本見学会を開催するにあたり施設との調整からご協力頂いた湘南支部の皆様、事前準備、当日運営の段取りをして頂いた青年委員の皆様、平日開催にも関わらず運営協力をして頂いた総務企画委員会、女性委員会の皆様のほか、施設関係者の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

表彰

都市計画法・建築基準法制定 100 周年記念 国土交通大臣表彰 「本会の会員 3 名が受賞！」

2019 年は都市計画法及び市街地建築物法の制定から 100 年にあたり、東京国際フォーラムにて記念式典が開かれました。式典では、都市計画及び建築行政の推進等に功績のあった個人と団体に対し、国土交通大臣表彰があり、本会会員の藤田 武さん、金子 修司さん、星野 芳久さんの 3 名が、特定行政庁における建築行政の推進に顕著な功績のあった個人として受賞されました。

■都市計画法・建築基準法制定 100 周年記念式典の概要

日 時：令和元年 6 月 19 日（水）13：15～16：45
会 場：東京国際フォーラム
主 催：都市計画法・建築基準法制定 100 周年記念事業実行委員会
共 催：国土交通省、東京都、大阪府

受賞者：都市計画法関係 個人 116 名、団体 22 団体
建築基準法関係 個人 141 名、団体 14 団体

■受賞された本会会員

藤田 武 氏（横浜支部）

主要経歴：元横浜市建築審査会委員
本会理事、常任理事、副会長を歴任し、平成 19～22 年度に本会第 11 代会長を務められ、現在は本会顧問。

金子 修司 氏（横浜支部）

主要経歴：横浜市建築審査会委員
平成 21 年度より本会理事を務められ、平成 27 年度～現在は本会第 13 代会長。

星野 芳久 氏（湘南支部）

主要経歴：元神奈川県建築審査会長
昭和 48 年より本会理事、平成元～26 年度本会常任理事を務められ、現在は本会相談役。

受賞された皆様、おめでとうございます。
今後とも一層のご活躍をお祈りいたします。

事務局だより VOL.38

令和 2 年から建築士試験の受験要件が変わります！

昨年 12 月 14 日に公布された建築士法の一部を改正する法律の施行期日等（施行は令和 2 年 3 月 1 日）が、去る 9 月 6 日に閣議決定されました。これにより、令和 2 年の建築士試験から、建築士試験の受験要件となっている実務経験について、免許登録までに積んでいけばよいことになり（実務経験のみの者が二級・木造建築士免許を受ける場合等を除く）、例えば、大学卒業後すぐに試験に合格し、その後実務経験を経て免許登録するといったことも可能になります。

令和 2 年の建築士試験日程について

一級・木造建築士試験の「学科の試験」は、例年 7 月第 4 週日曜日に実施されておりますが、令和 2 年に例年どおり実施した場合、東京オリンピック・パラリンピック期間中となります。このような状況

に鑑み、東京オリンピック・パラリンピック開催期間中の大規模な人の移動を避ける観点等から、試験会場が確保されることを前提に、「学科の試験」については、例年より 2 週間早い 7 月 12 日（日）の日程で実施される予定です。

なお、二級建築士試験は例年どおり 7 月 5 日（日）に実施される予定です。

建築士試験監理員へのご協力をお願い

建築士試験の受験要件の変更により、受験者数の増加が見込まれ、本県でもその対応が必須となってまいります。

そこで、会員の皆様に、令和 2 年度の建築士試験試験監理員へのご協力をお願いいたします。

詳細は追って本会機関紙「掲示板」等でお知らせします。

（参考）国土交通省のホームページ

http://www.mlit.go.jp/report/press/house05_hh_000799.html